情報公開文書

研究の名称	プリザーフロマイクロシャント術後の過剰濾過因子の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系 眼科学 眼科 林 篤志
研究の概要	<p>【研究対象者】 2024年1月から2025年2月までの間富山大学附属病院で難治性緑内障と診断されプリザーフロマイクロシャントが施行され、術後少なくとも1カ月経過観察できた患者さんを対象とします。</p> <p>【研究の目的・意義】 緑内障濾過手術は眼圧を下降させ、視機能を保持する効果がありますが、眼圧が目標よりも下がりすぎ、視機能障害が起きることがあります。そのため濾過手術の際に眼圧が下がりすぎないように注意する必要があります。また近年緑内障濾過手術の中で緑内障低侵襲手術として注目されているのがプリザーフロマイクロシャントです。プリザーフロマイクロシャントは、緑内障フィルターデバイスであり、前房内に刺入留置し房水流出路を作製し、眼圧を下降させます。内腔が70μmとなっており、低眼圧合併症が起きにくいと考えられています。しかしながらプリザーフロマイクロシャントにおいても低眼圧が起こることが報告されております。</p> <p>従って今回我々はプリザーフロマイクロシャント術後に過剰濾過による低眼圧を起こした症例を調査し、術後の過剰濾過を予測する術前因子を同定するための後ろ向きの研究を実施いたします。プリザーフロマイクロシャント術後の過剰濾過による低眼圧を術前から予測することで、より良好な視機能を保持するための対策を検討できる可能性があります。プリザーフロマイクロシャント手術を今後受ける患者に対して低眼圧の合併症が起こりうるリスクを説明する根拠となります。</p> <p>【研究の方法】 診療録による後ろ向きの調査を行い、術後の浅前房、低眼圧黄斑症、脈絡膜剥離の有無、術前の(1)年齢(2)性別(3)緑内障病型(4)水晶体の状態（有水晶体か偽水晶体かどうか）(5)術前眼圧（GAT）(6)術前中心角膜厚(7)強度近視の有無を調査いたします。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年3月31日</p> <p>【利益相反の状況】 公開すべき利益相反はありません。</p> <p>【研究結果の公表の方法】 論文掲載を予定しています。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法	情報の項目：術後の浅前房、低眼圧黄斑症、脈絡膜剥離の有無、術前の(1)年齢(2)性別(3)緑内障病型(4)水晶体の状態（有水晶体か偽水晶体かどうか）(5)術前

<p>(他機関への提供の有無)</p>	<p>眼圧 (GAT) (6)術前中心角膜厚(7)強度近視の有無 他機関への情報の提供：無</p>
<p>研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名</p>	<p>富山大学附属病院長 林 篤志</p>
<p>研究資料の開示</p>	<p>研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。</p>
<p>試料・情報の管理責任者 (研究主機関における研究責任者氏名)</p>	<p>学術研究部医学系眼科学 教授 林 篤志</p>
<p>研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口</p>	<p>研究対象者からの除外 (試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む) を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 眼科医局 076-434-7363</p> <p>FAX 076-434-5037</p> <p>E-mail otsuka@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 学術研究部医学系眼科学 大塚光哉</p> <p>研究対象者等からの相談窓口 電話対応</p>